

我孫子・印西協働フォーラム2023

わっしょい市民活動!!一緒に描こう! 私のまちの未来予想図 報告書

開催日時 2023年
11月25日(土) 9:30~15:00

開催場所 アビスタ(1階:ホール、調理室 2階:ミニホール、第3学習室、第4学習室、第5学習室、和室1、和室2、オープンスペース)、手賀沼公園

実施内容

午前 9:30~11:30

シンポジウム

オープニング

手品(43マジックサークル)

1.我孫子・印西地域分析

影山貴大(印西市市民活動支援センター・コーディネーター)

野際里枝(あびこ市民活動ステーション・コーディネーター)

2.団体プレゼンテーション

<居場所づくり>

- ・だがしやあめちゃん(印西)
- ・街中に居場所プロジェクト(我孫子)

<あいさつとゴミ拾いでまちづくり>

- ・コスモスリボンプロジェクト(印西)
- ・ゴミコ&ちっちのアトリエ(我孫子)

<男女共同参画>

- ・印西市市民公益活動団体Shake Hands(印西)
- ・あびダンディズムプロジェクト(我孫子)

午後 12:00~15:00

ワークショップ

- ・ロックミシン体験(みんなの居場所「ビスケツト」)
- ・松ぼっくりクリスマスツリー作り(みんなのおにわ)
- ・無償設置場所に提供するナブキンの個包装と生理のお話(Shake Hands)
- ・スポンジケーキでクリスマスツリー作り(全国友の会我孫子支部)
- ・コーチング・セッション(コミュニケーション実験室TEAM YES AND)
- ・地域みんなでワイワイ課題解決!ボードゲーム「コミュニティコーピング」体験会(あびコミュコピ)
- ・コスモスリボンづくりと代表者とのトーク(コスモスリボンプロジェクト)
- ・印西市市民活動団体PRブース(印西市市民活動支援センター)
- ・東京おもちゃ美術館の木のおもちゃで遊ぼう(おもちゃの広場「花」)
- ・ごみこし、ごみりゅうお披露目(ちっちのアトリエ with ゴミコ)
- ・だがし販売&くじ引きゲーム(だがしやあめちゃん)
- ・キットパス号にらくがき、キットパスで手形・足形、商品販売(日本理化学工業株式会社)
- ・バルーン作品をプレゼント(カラフルバルーンの家)

参加者

延べ参加人数 1,136人

シンポジウム 45人

主催 あびこ市民活動ステーション、印西市市民活動支援センター
(指定管理者 株式会社東京ドームファシリティーズ)
我孫子市

後援 我孫子市教育委員会

協力 おもちゃの広場「花」、全国友の会我孫子支部、43マジックサークル、日本理化学工業株式会社

協賛 Naturalismo kitchen Despierta



シンポジウムのまとめ

地域分析 ～データから見る我孫子市と印西市～

Q RESAS



我孫子市と印西市を、「RESAS」という地域経済分析システムなどのデータから見てみました。

人口推移や人口ピラミッドには大きな差はありませんが、違いが顕著だったのは「自然増減・社会増減の推移」です。印西市は千葉県内の人口増加率2位の地域でもあるため、プラスの帯がみてとれる一方、我孫子市の人口の減少の様子が、グラフにしてみると、とてもインパクトが強く感じられます。

「地域経済循環図」からは、その地域の中でのお金の流入・流出を見ることができます。我孫子市は56.6%、印西市は70.8%で、かつ、我孫子市の方が地域外からの収入が多いというのわかります。

ここから、これからの市民活動の軸となる、学生や働き盛りの人口と経済の様子にも違いがありそうだと予想されます。

そこで、もう一つのツール、埼玉県が公開している「昼夜間人口見える化ツール」で、「昼夜間の人口」と、「15歳以上の年齢別労働力状態」を比較してみたところ、我孫子市の非労働力人口が多いことがわかりました。

結果的に、我孫子市は仕事には就いていなくても、地域にいる人の割合が多いということがわかり、そこに対して声かけをしていくと、市民活動が広がっていく余地があります。

また、子育て世代に関しては、我孫子市は、在宅の仕事や、コミュニティビジネスからの市民活動への参加が、印西市では、企業の働きかけからの市民活動への参加がしやすいのではないかと、仮説を立てることもできるかと思えます。

団体プレゼンテーション

居場所づくり >>>

だがしやあめちゃん 印西

「あめちゃんひとつで気分は変わる」

代表 畑中由美子さん

2023年1月に5人のメンバーが集まって、子どもの居場所作りとして駄菓子屋をやることになった。団体名を決める時に、メンバーの1人がカバンからあめを出して「なめる？あめちゃん」と言い、それで名前が決まった。娘が小さい頃、転んで大泣きしていた時に見知らぬ人があめを差し出してくれた経験がある。その行動には、他人と関わり合う必要性と他人の偉大さと飴のパワーを教えてくれた。

活動のスタートは、「第2回いんざいまちなか音楽祭」への出店だった。「だがしやあめちゃんです。子ども食堂運営を目指しています」という私達の呼びかけに、協力や応援の声をいただいた。やりたいことを声に出せば反応が返ってくる、行動を起こせば人の心が温まり、その輪が広がっていくと感じた。こんな素敵な現状、楽しくて、やめられない、止まらなと、半年で20回もイベントに出店した。

人々の役に立ち助け合うためには、発信していく力、繋がる力、協力する力、助けて欲しいと言える力、人を笑顔にする力が必要だと感じている。



また、活動すればするほど、消耗品・ガソリン・昼食などの経費がかかる。活動継続のために、助成金やクラウドファンディングにチャレンジしたいと勉強中である。

街中に居場所プロジェクト 我孫子

「役割のある居場所づくり」

代表 水品朋子さん

作業療法士として、25年間にハビリ病院勤務の後、2022年夏前に退職した。これからは「小さな役割を生む居場所作り」をしたいと思った。街のそこ、ここにあったらいいなという思いを込めて「街中に居場所プロジェクト」と命名し、一人でできることから動き始めた。

20年間暮らしている我孫子をよく知らず、紹介された人に会うことから始めた。あびこ市民活動ステーションのコーディネーターと出会い、湖北の洋服直し屋「衣の里」や「湖北をみんなで楽しみ隊」と繋がることになった。

「衣の里」の倉庫を借り、「みんなの居場所ビズケット」として4月にオープンした。会員には「微助っ人（びすけっと）」として、ゆるいつながりの中で誰かに力を貸したり、助けてもらったりしてほしいと思っている。現在までの登録会員は小学生から80歳代まで139人、10月の延べ利用者は86人、週5日営業している。サービス内容は、居場所利用（100円/回）、ミシン利用（500円/半日）、材料利用（500円/日）。ワークショップも開催し、ここに集う人達の「小さなやってみよう」も実現している。畑仕事を微助っ人したり、産衣を作る会とご縁ができるなど、予想を超えた繋がりも生まれた。

柔軟に使える場所だけに「微助っ人」というコンセプトがぶれないようにし、ここを第1拠点として小さな居場所を街中に広げたいと思っている。

あいさつとゴミ拾いでまちづくり >>>

コスモスリボンプロジェクト 印西

「ただいま、おかえりって言い合えるまちに」

代表 阿部美香さん

私たちは、まちなかですれ違った人同士が、たとえばはじめましての人だったとしても、お互いに「ただいま、おかえり」と言い合えるようなまちを目指して活動している。

コロナ時代は全力で積み上げてきたものを強制的に取り上げられて、頑張ってる感情を殺しながら生きていた。でも、自分の人生を豊かにできるのは親でも周りの人でも社会でもなく、自分自身だとなつてきた。子どもたちの笑顔を守りながら希望を与えられる大人を増やしたい、自分の力で人生を豊かにできる子どもを増やしたいと思ったことが活動のきっかけになった。

活動の一つは、イベントやお祭りの企画と運営。他の団体と協働して主催している自主イベントと、INZAIポットラックや里山パラダイスなどの運営支援を行っている。もう一つは、「みもらん」の活動。「見守り防犯ランニング」の略で、幅広い世代の24人がメンバーになっている。みんなで活動する日もあるが、それ以外

は各自のペースで、いつも通りランニングやウォーキング、犬の散歩などをしながら、地域の見守りやまちなかのいいところを発見したり、街灯切れや道路の破損・ポイ捨てといった気づきをオープンチャットで報告し合う。この積み重ねが、当事者意識の芽生えと質の高い社会化（生活の質向上、何かあったときに助け合える関係性）につながると考えている。

私たちが目指す姿
「ただいま」「おかえり」って
言い合えるまち



ゴミコ&ちっちのアトリ 我孫子

「ゴミコです。活動テーマは人間と

アートとゴミです」

子どもリーダー内藤陽仁さん、
ちっちのアトリメンバー栗原彩花音さん

ゴミコのリーダーの小学6年のはるとです。ちっちのアトリメンバーの小学3年のあかねです。ゴミコは、1. 市内でゴミ拾い、2. 拾ったゴミをキレイに洗う、3. 作品を作る、作品展を開くという活動を行っています。どうしてゴミ拾いをしているのかというと、以前から、我孫子の街中におちているゴミが気になっていたからです。ゴミ拾いの日は、まずリーダーが注意事項をメンバーに伝えます。ゴミを拾った後は、分別します。ゴミから作った作品は、ごみこし（ちっちのアトリエ）、ゴミら、ごみりゅうです。作品展も開きました。

ゴミコは、ちっちのアトリエのちっちさんが、沿道を歩いていて「手賀沼クリーンアップ大作戦」の看板を見つけたことに始まります。ちっちさんがアトリエのメンバーを誘ってゴミ拾いをして、ごみこしを作りました。「あびこ」と「ごみ」を合体させて「ゴミコ」という団体名をつけ、2022年7月にあびこ市民活動ステーションに団体登録して市民活動団体になりました。「市民のチカラまつり2022」でも、ごみこしをお披露目しました。この年は10月、12月、2023年は2月、3月、5月にゴミ拾いをしました。ゴミらは、2023年4月に、ごみりゅうは7月～10月に制作し現在にいたります。

小さな活動も、続ければ大きな力になると感じています。



男女共同参画 >>>

印西市市民公益活動団体 Shake Hands 印西

「子どもと保護者の『どうしよう』を
解決するお手伝いをします」

副代表理事 源河寿理さん

目の前に起きている出来事に見て見ぬふりをするという習慣を選んだり、知らず知らずのうちに心の奥底へそっとしまっていたりしないだろうか。課題は、1人だけで悩まなくていい、みんなで取り組む未来を実現しようと、2020年10月から活動している。PTAで知り合った仲間との関係を継続したくて、設立した。

個室トイレに生理用品を設置したり、思春期の子どもたちの生理にまつわる不安・疑問を解消し、生理の仕組みや正しい生理用品の知識を習得できるようにして「生理の貧困」をなくしたいと考えている。性（生）教育を通じて、男女平等及び多様性を尊重し、自他の心身・生命を大切にできる子どもを育てていきたい。

生理用品は、企業や個人（配偶者を亡くした方や病気で不要になった方）などから寄贈され、寄付によって全国とつながることができている。寄贈された生理用品は、文化ホール・図書館などの公共施設、民間シェルター、災害被災地など、海外ではトンガにも贈っている。

また、市内の学校や商業施設で、月経に関する講座・イベントの企画、運営も行っている。

メンバー全員が多様な社会貢献活動に従事し、豊富な知識と専門スキルを持つという強みを活かして、戦略～企画～運用までワンストップで対応するコンサル型ソーシャルセクターを目指したいと思う。



あびダンディズム プロジェクト 我孫子

「DoからBeへ！」

代表・あびエーター 小林 仁さん

アラフィフ（50歳前後）会社員男性3人組のユニット。出会いは2021年度我孫子市男女共同参画連続講座「beの名刺づくり」だ。同講座はdo（やらなくてはならないこと、仕事）ではなく、be（自分のあり方ややりたいこと）を見つけ、自分らしくいられて行動できる肩書きを自分で設定し、名刺にして交換するという内容だった。その講座をきっかけに3人が2023年に団体を立ち上げ、我孫子市初の男女共同参画団体が誕生した。

日常での知恵の共有や役に立つことを実践するワークショップやイベント、集まって話すバーベキュー、男性の家事情報交流を開催している。「やってみたいことをまずはやってみよう！」と我孫子駅北口の花壇デザインコンテストに応募したり、「げんきフェスタ」（湖北地区公民館）でおとなのための休憩所として「つながるカフェえぶくろで注文」を企画・運営するなど、プロジェクトへの参加や他の市民活動団体とのコラボレーションを積極的に行っている。

目標やゴール、数字や比較など結果を重視する従来の枠を解放し、「ワクワクファースト」で様々なコトを創造し、チャレンジや失敗、他者との交流の中で未知を知ることや過程を楽しむことを重視して活動中だ。

「DoからBeへ。ナニものでもない自分者。
だからこそありのままの自分で活動しよう！
Let's Be Dandy！」



参加者の感想

(シンポジウム後のアンケートから)



地域分析が面白かったです。今後の活動に生かしたいと思います。

子供から大人まで幅広い世代がプレゼンしていてとても良かったです。

「大げさなものでなく、まちのそこ、ここに居場所があればいい」ととても大事なコンセプトだと思いました。

我孫子市在住の身として、街が、人々がつながり、居心地の良さを根本から感じられる何らかの役割を、自分も担っていききたいと思います。

手品がすごかったです。

印西市でも我孫子市でも楽しんで自分たちの活動をしている団体がたくさんあって、それがまちづくりにつながっていることがすごいなと思いました。

居心地の良い居場所を地域に作る重要性を感じました。

全体的に感銘を受けました！そして全団体のイベントに参加してみたいです。そして、考えてばかりいないで、仲間に声をかけて、動きはじめたいと思います。

主催した両センターの感想

印西市市民活動支援センター

今回の「我孫子・印西協働フォーラム」を無事開催することができたのは、いろいろな環境や状況で、日々活動に励んでいる団体さんがいて、センターからの要請に快く協力してくださったことだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

当日の発表やワークショップは、各団体さんの個性と魅力があふれており、力強く大きなパワーを感じることができたのではないのでしょうか。また我孫子市と印西市の団体さんのつながりが広がったことを目の当たりにし、協働の良さを直に感じることができました。「市民活動っていいな&つながるっていいな」とサポート側の私たちも改めて感じる機会となりました。

みなさまと一緒に未来予想図を描きながら、これからの市民活動がますます元気で活発になることを切に願い、スタッフ一同、団体さんに寄り添ったサポートをして参りたいと思います。

あびこ市民活動ステーション

5年に一度の「我孫子・印西協働フォーラム」を開催するにあたり、約10ヶ月間両センターで話し合いを重ねました。目玉となるシンポジウムでは、あえて互いの市にない活動をしている団体を選定しました。登壇者の熱いプレゼンを聴きながら、市民活動とは個人の体験や思いから発生することが多く、一人の思いは多くの人を動かすのだと改めて感じました。

なかなかお目にかかれない「Kitpas号」（日本理化学工業株式会社）の来場、ワークショップで出展した団体も来場者と交流を深めながらイベントを盛り上げました。当フォーラムをきっかけに、互いの市を行き来する間柄になった方もいます。これから市民活動を始めようという方にとっての種まきもできたように思います。

我孫子と印西は近接していますが、地域特性や課題は異なります。これからもそれぞれの魅力を活かしながら、交流し、学び合い、市民活動によってまちが活性化することを願っています。

発行日 2024年3月31日

発行者 あびこ市民活動ステーション

印西市市民活動支援センター

(指定管理者 (株) 東京ドームファシリティーズ)

